太宰府人物志

資料室だより ⑧⓪

鎮西奉行天野遠景

天野氏は伊豆国田方郡天野（現静岡県伊豆の国市天野付近）を本拠地とする鎌倉幕府の御家人です。平治の乱で平氏に捕らえられた源頼朝は伊豆に配流されますが、天野遠景はその頼朝のもとに出入りしていた武士の一人で、古参の側近として頼朝の信任も篤かったようです。遠景は、元暦元（1184）年、頼朝の命を受けて一条忠頼という人物を暗殺しますが、これも頼朝の遠景に対する信任の篤さを示すといってよいでしょう。

さて、源平合戦に勝利した頼朝にとって、九州支配は頭の痛い問題でした。平氏は日宋貿易を重視して、九州をその勢力基盤の一つとしていたからです。そのため、弟源範頼をはじめとして肉親・側近を次々と派遣し、九州の経営に当たらせました。

遠景もそのうちの一人で、兄頼朝と敵対し西国に逃亡した源義経および九州内の平氏の残党を追討するため、文治元（1185）年末頃、「鎮西奉行」として九州に下り、10年前後ここで活躍しました。鎮西奉行とは、鎌倉幕府による九州統治の出先機関で、遠景の段階では軍事的性格が強く、頼朝の直接の指揮下に置かれ、権限は全九州に及んでいました。遠景は九州で御家人の安堵・新恩に関する活動や、軍事行動、公家・寺社等の要請に基づく活動などを頼朝の指示のもと行います。なお、鎮西奉行の後任については、①遠景一代で廃絶した、②中原親能が就任した、③武藤資頼が就任した、④武藤・大友両氏が就任したなど各説あり決着がついていません。遠景と比較して、それ以降に鎮西奉行に就任したとされる人物の権限が小さく、同じ職とみることができるかどうかが一つの争点になっています。

遠景が府官（大宰府現地の役人）2名とともに発給した文書が5通ほど残っています。府官は朝廷側の人物ですから、武士である遠景といっしょに文書を発給するのはきわめて珍しいことです。このことは遠景が大宰府現地で府官を掌握したことを意味し、のちの武藤（少弐）氏の活動の先蹤といえるものです。

市史資料室　朱雀　信城